

作成日 2011/5/26

改訂日 2025/2/21

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 VP 1 + 2試薬-VP1
 製品コード 70422
 供給者の会社名称 ビオメリユー・ジャパン株式会社
 住所 東京都港区赤坂二丁目17番7号赤坂溜池タワー2階
 電話番号 03-6834-2666
 推奨用途 試薬
 使用上の制限 推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家/化学物質専門家等の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約
化学品のGHS分類

健康有害性 急性毒性(経口) 区分3
 皮膚腐食性/刺激性 区分1
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分1
 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(呼吸器)
 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(呼吸器)
 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険
 危険有害性情報 H301 飲み込むと有毒
 H314 重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷
 H370 呼吸器の障害
 H372 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害

注意書き

安全対策

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260)
 取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)

応急措置

飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。(P301+P310)
 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。(P301+P330+P331)
 皮膚又は髪に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。(P308+P311)

直ちに医師に連絡すること。(P310)
 特別な処置が必要である。(P321)
 口をすすぐこと。(P330)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
水酸化カリウム	40%	KOH	(1)-369	既存	1310-58-3
物質(その他)	60%	不明	不明	不明	不明

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
 強アルカリ性の製品なので、石けんを用いず微温湯を流しながら皮膚の刺激や、ぬるぬるする感じがなくなるまで洗い続ける。1時間以上を要することがある。

眼に入った場合

直ちに多量の水で十分に洗浄し、希酢酸水(0.5-2%水溶液)でぬるぬるする感じがなくなるまで洗う。更に水で洗浄し、速やかに医師の処置を受ける。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
 口をすすぐこと。
 無理に吐かせないこと。
 特別な処置が必要である。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

情報なし

使ってはならない消火剤

棒状水。

火災時の特有の危険有害性

燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

特有の消火方法

消火作業は、風上から行う。
 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

関係者以外は安全な場所に退去させる。
 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

環境に対する注意事項
封じ込め及び浄化の方法
及び機材

二次災害の防止策

作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。

多量の場合、人を安全な場所に退避させる。
必要に応じた換気を確保する。

漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
多量の場合、人を安全な場所に退避させる。

少量の場合、吸着剤(土・砂など)で吸着させ取り除いた後、残りを大量の水で洗い流す。

盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。

必要があれば希塩酸、希硫酸などで中和する。

中和の際は、発熱、発煙などに注意する。

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

安全取扱注意事項

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

保管

接触回避

『10. 安定性及び反応性』を参照。

安全な保管条件

『10. 安定性及び反応性』を参照。

施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
水酸化カリウム	未設定	【最大許容濃度】 2 mg/m ³	Ceiling 2 mg/m ³

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値/天井値
水酸化カリウム	未設定	未設定

設備対策

蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な呼吸用保護具を選択し、着用すること。

手の保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護手袋を選択し、着用すること。

ニトリル製保護手袋を着用すること。

		状況に応じて、不浸透性、不透過性の保護手袋等適切な保護具を着用すること。
眼、顔面の保護具		リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な眼および顔面の保護具を選択し、着用すること。
皮膚及び身体の保護具		状況に応じて、不浸透性、不透過性の保護衣、履物等適切な保護具を着用すること。 リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護衣、履物を選択し、着用すること。
9. 物理的及び化学的性質		
物理状態		液体
形状		データなし
色		殆ど無色
臭い		データなし
融点／凝固点		データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲		133°C(推定)
可燃性		なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	下限	データなし
	上限	データなし
引火点		データなし
自然発火点		データなし
分解温度		データなし
pH		14(推定)
動粘性率		データなし
溶解度		データなし
n-オクタノール／水分配係数		データなし
蒸気圧		データなし
密度及び／又は相対密度		1.20 g/cm ³ (推定)
相対ガス密度		データなし
粒子特性		データなし
10. 安定性及び反応性		
反応性		強酸と激しく反応する。 本製品は、酸化剤と反応する可能性がある。 通常取扱条件において安定である。
化学的安定性		通常の取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性		一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。
避けるべき条件		混触危険物質との接触。
混触危険物質		酸 酸化剤 無水マレイン酸
危険有害な分解生成物		危険有害な分解生成物は知られていない。
11. 有害性情報		
急性毒性	経口 経皮 吸入	急性毒性推定値が273mg/kgのため区分3とした。 データ不足のため分類できない。 (気体) GHS定義による気体ではない。 (蒸気) データ不足のため分類できない。 (粉じん・ミスト) データ不足のため分類できない。

皮膚腐食性／皮膚刺激性		製品のpHが14のため塩基(pH \geq 11.5)とし、区分1とした。
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性		製品のpHが14のため塩基(pH \geq 11.5)とし、区分1とした。
呼吸器感作性		データ不足のため分類できない。
皮膚感作性		データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性		データ不足のため分類できない。
発がん性		データ不足のため分類できない。
生殖毒性		(生殖毒性) データ不足のため分類できない。
		(生殖毒性・授乳影響)
		データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		区分1(呼吸器)の成分が40%のため、区分1(呼吸器)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		区分1(呼吸器)の成分が40%のため、区分1(呼吸器)とした。
誤えん有害性		動粘性率が不明のため、分類できないとした。
12. 環境影響情報		
生態毒性	水生環境有害性 短期(急性)	(毒性乗率 \times 100 \times 区分1)+(10 \times 区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分に該当しないとされた。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
	水生環境有害性 長期(慢性)	(毒性乗率 \times 100 \times 区分1)+(10 \times 区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分に該当しないとされた。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
残留性・分解性		データなし
生体蓄積性		データなし
土壤中の移動性		データなし
オゾン層への有害性		データ不足のため分類できない。
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。 強アルカリ性であるため、酸で中和した後処理すること。
汚染容器及び包装		容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意		
国際規制	海上規制情報	IMOの規定に従う。
	UN No.	1814
	Proper Shipping Class	水酸化カリウム(水溶液)
	Packing Group	8
	Marine Pollutant	II
		Not applicable

	Liquid Substance Transported in Bulk According to MARPOL 73/78, Annex II, the IBC Code	Not applicable
国内規制	航空規制情報 UN No. Proper Shipping Class Packing Group 陸上規制 海上規制情報 国連番号 品名 クラス 容器等級 海洋汚染物質 MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質 航空規制情報 国連番号 品名 クラス 等級	ICAO/IATAの規定に従う。 1814 水酸化カリウム(水溶液) 8 II 毒物及び劇物取締法の規定に従う。 船舶安全法の規定に従う。 1814 水酸化カリウム(水溶液) 8 II 非該当 非該当 航空法の規定に従う。 1814 水酸化カリウム(水溶液) 8 II 154
緊急時応急措置指針番号		
15. 適用法令 労働安全衛生法		名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号～第2号別表第9) 水酸化カリウム 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号～第2号別表第9) 水酸化カリウム(政令番号:316) 腐食性液体(労働安全衛生規則第326条) 皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧)
労働安全衛生法(令和7年4月1日以降)		水酸化カリウム 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2) 水酸化カリウム 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)
労働安全衛生法(令和8年4月1日以降)		水酸化カリウム(安衛則別表第2の番号:1119) 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2)

	水酸化カリウム 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)
毒物及び劇物取締法	水酸化カリウム(安衛則別表第2の番号:1119) 劇物(指定令第2条)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	水酸化カリウムを含有する製剤(40%) 非該当
16. その他の情報	
連絡先	医療分野の方/代理店:0120-265-034 上記以外の方/代理店:0120-022-328
参考文献	bioMérieux SDS(2024-01-11) bioMérieux Package Insert(15460 I-en-2020/04) NITE-CHRIP(独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム) JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
その他	ezSDS 記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものです。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。 【改訂履歴】 化管法対応済(R5.04施行分) 安衛法対応済(R8.04施行分)

作成日 2011/5/26

改訂日 2025/2/21

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 VP 1 + 2試薬-VP2
 製品コード 70422
 供給者の会社名称 ビオメリュー・ジャパン株式会社
 住所 東京都港区赤坂二丁目17番7号赤坂溜池タワー2階
 電話番号 03-6834-2666
 推奨用途 試薬
 使用上の制限 推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家/化学物質専門家等の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約
化学品のGHS分類

物理化学的危険性 引火性液体 区分2
 健康有害性 皮膚腐食性/刺激性 区分1
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分1
 皮膚感作性 区分1A
 発がん性 区分1A
 生殖毒性 区分1A
 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用 気道刺激性)
 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(肝臓)
 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(中枢神経系)
 環境有害性 水生環境有害性 短期(急性) 区分2
 水生環境有害性 長期(慢性) 区分3
 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示

注意喚起語
危険有害性情報

危険
 H225 引火性の高い液体及び蒸気
 H314 重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷
 H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 H335 呼吸器への刺激のおそれ
 H336 眠気又はめまいのおそれ
 H350 発がんのおそれ
 H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
 H372 長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓の障害
 H373 長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系の障害のおそれ
 H401 水生生物に毒性
 H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き
安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)

<p>容器を密閉しておくこと。(P233) 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260) 取扱い後はよく手を洗うこと。(P264) 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280) 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。(P301+P330+P331) 皮膚又は髪に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353) 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338) ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313) 直ちに医師に連絡すること。(P310) 特別な処置が必要である。(P321) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364) 火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)</p>	<p>応急措置</p>
<p>換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)</p>	<p>保管</p>

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
エタノール	93%	CH ₃ CH ₂ OH	(2)-202	既存	64-17-5
α-ナフトール	7%	不明	(4)-354	既存	90-15-3

4. 応急措置

吸入した場合

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

皮膚に付着した場合

皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

眼に入った場合

特別な処置が必要である。

直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

飲み込んだ場合	<p>口をすすぐこと。 飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。 ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。</p>
5. 火災時の措置 適切な消火剤	<p>粉末消火薬剤、耐アルコール泡消火薬剤、二酸化炭素、霧状水。</p>
使ってはならない消火剤 火災時の特有の危険有害性 特有の消火方法	<p>棒状水。 燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。 消火作業は、風上から行う。 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 関係者以外は安全な場所に退去させる。 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。</p>
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	
6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	<p>作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。 必要に応じた換気を確保する。 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。 情報なし</p>
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法 及び機材 二次災害の防止策	<p>付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。</p>
7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い	技術的対策
安全取扱注意事項	<p>『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。 容器を接地すること。アースをとること。 火花を発生させない工具を使用すること。 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 涼しい所に置くこと。 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。</p>

保管	接触回避 安全な保管条件	『10. 安定性及び反応性』を参照。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
----	-----------------	--

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
エタノール	未設定	未設定	STEL 1000 ppm
α-ナフトール	未設定	未設定	未設定

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値/天井値
エタノール	未設定	未設定
α-ナフトール	未設定	未設定

設備対策		蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
保護具	呼吸用保護具	リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な呼吸用保護具を選択し、着用すること。
	手の保護具	リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護手袋を選択し、着用すること。 ニトリル製保護手袋を着用すること。 状況に応じて、不浸透性、不透過性の保護手袋等適切な保護具を着用すること。
	眼、顔面の保護具	リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な眼および顔面の保護具を選択し、着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	状況に応じて、不浸透性、不透過性の保護衣、履物等適切な保護具を着用すること。 リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護衣、履物を選択し、着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態		液体
形状		データなし
色		無色透明～殆ど無色
臭い		データなし
融点/凝固点		データなし
沸点又は初留点及び沸点		78.29°C(推定)
範囲		
可燃性		データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	下限	データなし
	上限	データなし
引火点		13.0°C(推定)
自然発火点		データなし
分解温度		データなし
pH		データなし
動粘性率		データなし
溶解度		水:100%(推定)
n-オクタノール/水分配		α-ナフトール:2.85
係数		エタノール:-0.31
蒸気圧		73.53 hPa(推定)
密度及び/又は相対密度		0.81 g/cm ³ (推定)

相対ガス密度		データなし
粒子特性		データなし
10. 安定性及び反応性		
反応性		本製品は、通常の使用、保管および輸送条件下では安定かつ非反応性である。
化学的安定性		通常の取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性		一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。
避けるべき条件		熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。 引火点を超える温度。 混触危険物質との接触。
混触危険物質		強酸化剤
危険有害な分解生成物		危険有害な分解生成物は知られていない。
11. 有害性情報		
急性毒性	経口	急性毒性推定値が34000mg/kgのため区分に該当しないとしました。
	経皮	急性毒性推定値が12571.4285714mg/kgのため区分に該当しないとしました。
	吸入	(気体) GHS定義による気体ではない。 (蒸気) 急性毒性推定値が50000ppm超のため区分に該当しないとしました。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。 (粉じん・ミスト) データ不足のため分類できない。 区分1の成分合計が7%のため、区分1とした。 眼区分1の成分合計が7%のため、区分1とした。
皮膚腐食性／皮膚刺激性		
眼に対する重篤な損傷性		
／眼刺激性		
呼吸器感作性		データ不足のため分類できない。
皮膚感作性		区分1Aの成分が7%のため、区分1Aとした。
生殖細胞変異原性		データ不足のため分類できない。
発がん性		区分1Aの成分が93%のため、区分1Aとした。
生殖毒性		(生殖毒性) 区分1Aの成分が93%のため、区分1Aとした。 (生殖毒性・授乳影響) データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		区分3(麻酔作用)の成分合計が93%のため、区分3(麻酔作用)とした。 区分3(気道刺激性)の成分合計が93%のため、区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		※区分2(腎臓)は7%含まれる。 区分1(肝臓)の成分が93%のため、区分1(肝臓)とした。
誤えん有害性		区分2(中枢神経系)の成分が93%のため、区分2(中枢神経系)とした。 動粘性率が不明のため、分類できないとした。
12. 環境影響情報		
生態毒性	水生環境有害性 短期(急性)	(毒性乗率×10×区分1)+区分2の成分合計が70%のため、区分2とした。

	水生環境有害性 期(慢性)	長 (毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分 合計が70%のため、区分3とした。 データなし データなし データなし データ不足のため分類できない。
残留性・分解性 生体蓄積性 土壌中の移動性 オゾン層への有害性		
13. 廃棄上の注意 残余廃棄物		廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和な どの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態に する。 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門 の廃棄物処理業者に委託すること。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに 地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する こと。
汚染容器及び包装		
14. 輸送上の注意 国際規制	海上規制情報 UN No. Proper Shipping Class Packing Group Marine Pollutant Liquid Substance Transported in Bulk According to MARPOL 73/78, Annex II, the IBC Code	IMOの規定に従う。 1170 エタノール溶液 3 II Not applicable Not applicable
国内規制	航空規制情報 UN No. Proper Shipping Class Packing Group 陸上規制 海上規制情報 国連番号 品名 クラス 容器等級 海洋汚染物質 MARPOL 73/78 附属 書II 及びIBC コードに よるばら積み輸送さ れる液体物質 航空規制情報 国連番号 品名 クラス 等級	ICAO/IATAの規定に従う。 1170 エタノール溶液 3 II 非該当 船舶安全法の規定に従う。 1170 エタノール溶液 3 II 非該当 非該当 航空法の規定に従う。 1170 エタノール溶液 3 II
緊急時応急措置指針番号		127
15. 適用法令		

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号～第2号別表第9)

エタノール

危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号～第2号別表第9)

エタノール(政令番号:61)

皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧)

1-ナフトール

労働安全衛生法(令和7年4月1日以降)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2)

エタノール

1-ナフトール

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)

エタノール(安衛則別表第2の番号:205)

1-ナフトール(安衛則別表第2の番号:1455)

労働安全衛生法(令和8年4月1日以降)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2)

エタノール

1-ナフトール

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)

エタノール(安衛則別表第2の番号:205)

1-ナフトール(安衛則別表第2の番号:1455)

毒物及び劇物取締法
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

非該当

非該当

16. その他の情報
連絡先

医療分野の方/代理店:0120-265-034

上記以外の方/代理店:0120-022-328

参考文献

bioMérieux SDS(2024-01-11)

bioMérieux Package Insert(15460 I-en-2020/04)

NITE-CHRIP(独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム)

JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)

ezSDS

その他

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は、通常取り扱いを対象としたものです。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。

【改訂履歴】

化管法対応済(R5.04施行分)

安衛法対応済(R8.04施行分)